



みはる

笑顔いっぱい(心)知恵いっぱい(頭)元気いっぱい(体)

発行日 令和 8 年 7 月 7 日 (火)



↑ 本校HP

校長 井原 紳二

【みはる台小 育友会主催 親睦ミニバレーボール大会】

6/27(土)に、育友会イベント部のみなさまが中心となって、「親睦ミニバレーボール大会」が行われました。大会前の練習の時から、保護者同士がスポーツを通して、打ち解け合い、楽しく和やかな雰囲気の中で育友会行事となっていました。大会の開会式では、ミニバレーボール大会を復活させたかった理由について、イベント部の方が話されました。「以前行われていたミニバレーボール大会に参加した時、育友会のみなさまと仲良くなって、お友達も増えました。あの時、このような集う場があったから、今は楽しく育友会活動ができています。縦のつながり、横のつながりを広げるためにも、たくさんの方々のお協力のおかげでこのミニバレーボール大会を復活させることができました。」と、コロナ禍以前に行われていた「育友会親睦ミニバレーボール大会」の復活を宣言いたしました。大会通じて、終始、活気に満ち溢れていました。(=^・^=)大会自体は「学年対抗戦」で行われました。決勝戦はフルセットまでもつれる白熱した試合でしたが、見事「1年生チーム」が優勝しました。勝ったチームも負けたチームも笑顔がありました。身体を動かしながら親睦が深まったことと思います。バレーのあと、応援してくれた子供たちもドッジビー対戦があり、和気藹々とした雰囲気で幕を閉じました。参加してくださったみなさん！ありがとうございました。



があり、縦のつながり、横のつながりを広げるためにも、たくさんの方々のお協力のおかげでこのミニバレーボール大会を復活させることができました。」と、コロナ禍以前に行われていた「育友会親睦ミニバレーボール大会」の復活を宣言いたしました。大会通じて、終始、活気に満ち溢れていました。(=^・^=)大会自体は「学年対抗戦」で行われました。決勝戦はフルセットまでもつれる白熱した試合でしたが、見事「1年生チーム」が優勝しました。勝ったチームも負けたチームも笑顔

がありました。身体を動かしながら親睦が深まったことと思います。バレーのあと、応援してくれた子供たちもドッジビー対戦があり、和気藹々とした雰囲気で幕を閉じました。参加してくださったみなさん！ありがとうございました。



【「命の尊さ」について考える】

2003年(平成15年)7月1日に長崎県長崎市で発生した「長崎男児誘拐殺人事件」男児が誘拐され殺害された事件。あの痛ましい事件から23年経ちました。

23年前の7月1日午後7時頃、長崎市内の大型家電量販店を家族で買い物に訪れ、一人でゲームコーナーで遊んでいた男児に対して、加害者(当時中学1年)の少年が「お父さん、お母さんに会いに行こう」と騙して誘拐し、街中を連れまわしたあげく、屋上から約20メートル下の通路に突き落とし、殺害に至った「誘拐殺人事件」です。この事件以来、長崎県では「事件の教訓を風化させてはならない。」と、子供たちの安全を守る取組が各地で行われています。みはる台小学校では、ブログでも紹介した「芋づくり」「米づくり」をはじめとする「食」「命」に関する教育活動の他、「自転車教室」「メディア教育」などの「安心・安全」に関する教育活動も年間を通して行っています。先日、「みはるっ子の心を見つめる教育週間」で、子供たちの心に訴える「道徳科」の学習の様子を見ていただいたのもこの取組の一つです。みはるっ子に「命の尊さ」を伝えるとともに、「思いやりのある優しい子供たちに育てほしい。」と願いをもつて、これからも全職員で指導にあたっています。



【警報級の大雨予想のため、臨時休業】



6月23日の夕方、「明日（24日）の登校時に警報級の大雨が予想される」と気象庁が発表しました。諫早市をはじめ、長与町・時津町・大村市・長崎市・佐世保市など近隣の市町の小中学校が24日、臨時休業となりました。

あくる日の6月25日は通常登校となったものの、朝7時に、Jアラート「諫早市 土砂災害警戒レベル4」との緊急連絡が一斉送信されました。そのため、子供たちの登校をどうするか悩まれていた御家庭もあったと思います。今後またこのような大雨、台風等で迷われる場面に遭遇することがあるかと思いますが、御自宅周辺の様子を見て「お子様の安全を第一に考えた行動」をお願いします。以前「子供だけを家に置いて仕事に出かけ、親の留守中に土砂崩れが起き、家が押しつぶされ、子供たちが亡くなった」という痛ましい事件がありました。自然災害は人間が思う以上の災害が起こるおそれがありますので、十分、用心せねばなりません。登下校中の子供たちのことは気になりますが、学校は耐震補強された比較的安全な場所です。登校してきた大切な子供たちのことは、しっかり守ります。昨日の大雨も気になり、登校してきた子供たちの様子を伺うとともに、自宅等の被害はないか尋ねましたが、大きな被害は聞いておりません。何かありましたら、学校にも地域の被害状況を教えてください。

左の写真は、先日の大雨のあと、6月24日に撮影したものです。側溝からは、雨水とともに溝に埋まっていた枯れ葉が噴き出ています。雨量の多さと水の勢いの凄さがわかります。梅雨時期が抜けるまでにはもうしばらくかかりそうです。お出かけの際は十分気を付けられてください。これからまた、台風シーズンも到来します。気象情報をよく聴いて、自然災害には十分注意していきましょう。

【1学期まとめの時期に入りました。「聴く力」を伸ばしましょう。】



あっという間に7月に入りました。今の学校の様子を一言で言いますと「まとめの時期に入っています！」と言います。どの各教室の様子を覗くと、「テスト」や「話し合い活動」など、1学期のまとめの学習を行っていました。左の写真は1年生の学級の授業風景です。「友達の発表・発言をしっかり見て話を聴く」という「聴く姿勢」ができた子供たちが多くいます。「話を聴く」という、基本的な習慣が、学習・生活において、とても大切なものであることはご存知のことと思います。

あるお医者さんのお話です。「聴く力とは、相手の言葉だけではなく、表情・仕草・そしてその時の状況から垣間見える相手の心情を想像する能力のことだと思っています。」と言われました。「じっくり相手を見て話を聴くことができる子供は、相手の言いたいことを『言葉』『表情』『仕草』などから、正しく感じ取ることができるようになる！」というのです。そして「聴く力が上がれば、話す言葉・選ぶ言葉も変わり、相手への伝わり方も変わります。「話す力・伝える力」を上げる第一歩として、聴く力をしっかり身に付けていきたい。」と、御年齢80歳近くの先生は、おっしゃっていました。小・中学生にも聴かせたい講話でした。

また、ある本には次のように書かれてありました。「職場において、上司が部下の話に耳を傾けると、部下の安心感や意欲に好影響がもたらされることが、数多くの研究で報告されてきました。たとえば、話を『よく聴く』上司の存在は、部下のウェルビーイング（心理的・情緒的な幸福感）を高め、チーム内での創造的なアイデアの発案や、意見を自由に言える心理的安全性の向上に寄与することが知られています。」と。言いかえると「子供の話に、親や教師が耳を傾けることにより、子供の安心感や意欲に好影響がもたらされる。」ということです。まとめの時期だからこそ、子供はもちろんのこと、保護者もそして教職員も「聴く力」を高め、笑顔あふれる「みはるっ子」を育てていきましょう。